

事業者部門会議の概要

1. テーマ 住宅用太陽光発電の普及

2. 目的

- ・住宅用の太陽光発電については、まだ導入余地があるが、事業用と比較して導入が進んでいない状況にある。
- ・住宅用太陽光発電を普及促進するため、設置した場合の発電量等をシミュレーションするとともに、不安を解消するための様々な情報を提供するソフトウェアをリリースするにあたり、事業者、府民、行政の各視点から意見をいただく。

3. 会議の開催

(1) 日時：平成27年6月11日(木) 午後3時～午後5時

(2) 場所：大阪府咲洲庁舎 23階 中会議室

(3) 出席者：なにわの消費者団体連絡会、パナソニック(株)、(株)フォトボルテック、(株)ライジングコーポレーション、堺市、茨木市、寝屋川市
オブザーバー：近畿経済産業局

(4) 概要

- ・大阪府における太陽光発電の導入目標と現状、住宅用普及に向けた課題認識を説明するとともに、対応策として開発したシミュレーションシステムを紹介。
- ・あわせて、今年度予算要求を見据えて集合住宅向けの支援策について意見交換

(5) 会議での主な意見

①シミュレーションシステム

- ・単結晶や多結晶といった太陽光パネルの種類の入力については、一般の方には難しくて選びにくいので、一般的なものを“標準”とするなど、工夫しないとここで止まってしまう。
- ・Google マップで家を選ぶのは、おもしろいが、自分の家がわかってしまうようで抵抗がある。屋根面積を入力するというのもわからなくて止まってしまう。2階の坪数を入れるなどの工夫をしてほしい。
- ・民間のシミュレーションもいくつか試して比較してみたが、屋根の形状設定の細かさや前提としている条件等によって結果が大きく変わる印象。前提としている条件や根拠はシミュレーション結果と合わせてきっちり明記すべき。

- ・FAQには、クーリングオフ等の消費生活関係の内容もあればよいのではないか。
- ・家族人数について、日中働きに出ているかという選択肢があるが、同居しているお年寄り等、昼間に家族が居るかどうかについても考慮しておいたほうがいいのではないか。電力会社でも時間帯による料金設定があるほか、来年4月から自由化で他の事業者も出てくるので、そのあたりがどうなるのかという考慮も必要。
- ・シミュレーションというのは、簡単すぎると「根拠は」と言われ、細かくしすぎると「わからない」と言われる。ある程度細かく準備しておいて、全部入力しなくてもある程度の結果が出るようにすると、あくまで目安であるということを強調することが必要。

②集合住宅向けの支援策

- ・新築・既築にかかわらず、20年間の買取期間で継続的に屋根を借りられるかというところが借りる側としては非常に怖い。土地は定期借地権などで担保できるが、建物は持ち主が変わると状況が一変する可能性がある。
- ・管理組合と居住者と意見が合わないとか、その辺の問題が多々あるので、集合住宅自身には付きにくいというのが現実。